



写真：11月1日に開催した歴史探訪ツアー「目賀田帯刀が描いた黒松内山道をゆく」より

# B2

## ニュースレター

2014/12/22

～冬のオススメイベント～  
世界湿地の日スノーシューハイク

### ふれあい体験に熱視線

【寿都町】2016年3月の北海道新幹線開業に向け、道南を中心に観光の受入体制を整備しようという動きが活発化している。今年も道が主催し、道南観光に係わる自治体関係者を集め、各地域のツアー商品の開発に向けたワークショップが4回開催された。10月15日には寿都町が主体となり観光交流プログラムを企画し、関係者が仮想観光客となり模擬ツアーを体験した。体験ツアーでは、漁業の町ならではのホッケ三枚おろし体験、ホタテ剥き体験の他、マップをもってマチ歩きをしながら商店街でキーワードを集め、道の駅で豪華景品が当たる抽選会に参加できるというスタンプラリーも披露された。運営に携わっている道の駅みなとま〜れ寿都店長・渡部拓也さんは「北海道新幹線の開業を見据え、道内外の観光客に楽しんでもらえる魅力的なマチ歩きを考え、町の特産品を大勢の方に伝えていきたい。そのためには寿都町だけでなく、近隣の町村と連携し、お互いのよいところを磨き伝えていくことが大切だと考えています」と話している。

ホッケの三枚おろしに挑戦する参加者



マチのちゃんこい歴史研究家・北村英芳さん  
「Player of the Season2」

今年11月のブナ里みてあるき「目賀田帯刀が描いた黒松内山道をゆく」でプレイヤーとして初デビュー！ ページ2

冬だから行く黒松内三山、名無しの峰は？

～山に登れば気分爽快～  
文・写真・図：辻野健治 ページ2

高砂酒造もち純米酒「舞白鳥」

原料であるもち米、これまで使用した「はくちようもち」を「きたゆきもち」に変更し発売 ページ3

BEECH BOYS ～ブナ里少年記紹介～

富田重義さん ページ4

### 進化するブナマルシェ、来年度営業に乞うご期待！

【白井川地区】平成26年度のブナマルシェ、5月3日(土)～5月5日(月)までの期間中に開催したゴールデンウィークセールと7月18日(金)～10月26日(日)のグリーンシーズン(金・土・日のみ)販売期間を併せ、計53回の対面式テント市を開催しました。今年のお客数と売上ですが、共に昨年の数字を大幅に上回り、年度計画の目標を達成できました。販売した野菜の中で今年最も販売数量が多かった野菜はミニトマトです。赤井川体験農園からも世界の珍しい固定種「ティゲラ(縞模様)」、「ワプシニコンピーチ(産毛あり)」、「ブラッシュタイガー(縞模様)」、「バーゲスタフピング(中が空洞)」などのトマトを出荷し、お客様から『こんな見た事ない、珍しい!』、『美味しいんですか?』などの質問を多く受けました。その他、ファーム関根からは、カシスジャム「粒タイプ」が新発売され、カシスをお酒やカクテル等でしか知らない人にも試食していただく『甘酸っぱくて美味しい!』と好評でした。また、トウモロコシの中でも最高糖度のスーパースイーツコーン「ホワイトショコラ」を茹でて販売すると『もう1本下さい!』というピーターもいました。どうぞ、来年のマルシェもご期待下さい。(山口)



おすすめ本の紹介



「神山プロジェクト」  
 ～未来の働き方を実験する～  
 徳島県神山町。山深いこの町に、若きクリエイターや起業家が集う。なぜ徳島の片田舎に若者たちが吸い寄せられるのか？新しい働き方、クリエイティブを生む場づくり、地域再生の方法論、不確実を楽しむ生き方など。現代の日本人が抱える課題の答えがここにある。本書では過疎を逆に「創造的過疎」という造語を生み出した神山プロジェクトの中心人物である大南伸也氏の神山グリーンパレーというプロジェクトを核に町に生まれる新スポットと住民を紹介し、なぜ過疎地に創造的な人材が集結し、クリエイティブビジネスを成功させているかを分析している。最終章では、神山グリーンパレーの活動の経緯を紹介、神山が創造的過疎

としての躍進を遂げる今日、その序文ともいう活動となった国際交流プロジェクトに触れる。そして、人のつながりを生み、多様な価値観の人々と更なる交流がはじまり、新しいモノが生まれた過程を経済ジャーナリスト・篠原氏がひも解いていく。来年、2月末には長万町町観光協会が神山グリーンパレー代表・大南氏、北大観光学高等研究センター・敷田教授などを招き、観光と地域づくりのフォーラムが開催される予定。千載一遇、是非とも足を運んでほしい！  
 ソフトカバー 224 ページ 2014/6 発行 日経 B P 社 本体価格 1,620 円  
 ★ マナヴェールで貸出



Player of the season2 マチのちゃんこい歴史研究家・北村英芳さん

11月1日(土)、B2みであるきイベント初となる歴史探訪ツアー「目賀田帯刀が描いた黒松内山道をゆく」を開催した。町内在住で歴史に興味を持つ参加者と関係者を併せ18名が参加、1856年に画人・谷文晁(たにぶんちょう)の門弟である目賀田帯刀が黒松内山道を歩き、描いた6枚の絵図を頼りに山道跡を巡った。ブナ里みであるきイベント初登場となるプレイヤーの北村英芳さんは、作開生まれの作開育ちで作開地域の歴史や斗南藩の歴史を調べるうちに帯刀が描いた黒松内山道の絵図に興味をもち、6枚の絵図のうち4枚の絵図が描かれたと思われる場所を特定している。北村さんは黒松内の小さな歴史を拾い集め、そのとりまとめに余念がない。「まちのちゃんこい歴史」がやがて町史改訂の際に役立てられるかもしれない。  
 写真：歌楽・教立寺の住職へ聞き取りを行う北村氏(右)

冬だから行く黒松内三山 名無しの峰は？

～山に登れば気分爽快～ 文・写真・図 ノースランド 辻野健治

黒松内で登山ガイドをしているノースランド・辻野健治です。黒松内近郊の山と周囲の景観についてご紹介させていただきます。

黒松内三山

黒松内は海に接していない、いわば山村です。とは言え、町の境界から海岸まであと200mの所があったり、日本分水嶺上に町境界線があったり、いろいろと面白いところ。さて、寿都町湯別から作開地区を望むと、高さの近い山が三峰見えます。人はこれを黒松内三山、または、作開三山と呼んでいます。北端の山が「天狗岳」南端の山が「観音岳」、さて、中央の山は？名前がありません。作開の人に聞いても名無しのように、とりあえず、「ベツヌブリ(仮名)」と呼ぶことにしました。黒松内三山には登山道が無く、積雪期にしか登れない山でスノーシューを装着して登山しました。以下、2012年～2014年にかけて三山に登頂した時の山行記録を書いてみました。

観音岳 (683.9m) 登山日：2012年4月11日

この日は高曇りではあるが、以外と視界が効きました。メンバーは、私の妻でノースランド登山ガイドをしている辻野治子、そして登山仲間の女性の計3名。作開にある寿都漁業協同組合さけますふ化場まで行き、下ウエンバツ川沿いに西尾根に取り付く。密集度の高いミズナラ、タケカンバやハンノキの林を登り、途中で雪の廊下みたいな所を越えて行く。頂上には山名がついている山のなので、山名看板が設置されていた。

天狗岳 (839.6m) 登山日：2012年4月23日

雪溶けは早く、登り始めとなる旧大金鉱山跡までの林道は土が見えていた。今回は、単独での登山となる。鉱山の石垣の脇を登り西尾根に取り付く。所々雪が溶けて背丈の低い笹の中を歩く所もある。以外や春の恵みである新芽が顔を出していた。稜線に上がる所が雪崩で、大きく迂回して登った。この山の頂上にも山名看板が設置されている。天狗と言う山名は、全国に多くあるのでここは「寿都天狗岳」としてある。時間があったので、黒松内町最高標高地点「910m」まで行ってみた。なだらかな尾根上で山頂と言う雰囲気はなかった。

ベツヌブリ (675m) 登山日：2014年4月3日

無名峰だけに呼び方に困るので何か名前を？と思い、作開地区の旧地名が別手ということから「ベツヌブリ」と仮に呼ぶことにする。今回は辻野治子と登る。熊野神社から登りはじめ西尾根に取り付く、以外やブナの樹が多い林を登る。頂上近くは、尾根が細く雪庇が崩壊している所もあり注意して登る。無名峰なので山名看板は無く、今回はお手製の可愛い看板をぶら下げた。この山が三山のなかで一番技術的に難しかった。



# FOOD & DRINK



## もち純米酒「舞白鳥」 ～高砂酒造～

年末のお楽しみのひとつ黒松内町限定酒「舞白鳥」の発売であるが、今年は12月11日に無事発売となった。これまで原料である米は、地元赤井川地区でつくられるもち米「はくちょうもち」を使用してきた。しかし、今年から生産農家さんの強い希望もあり原料米を「きたゆきもち」に変更しての発売となった。農薬を使わず丹精込めて栽培し収穫した「きたゆきもち」で出来上がった舞白鳥、さて、その味わいはいかに？

## ～官能ジャムでハートをつかめ～

辞書で JAM を調べると「詰めこむ」「押しつぶす」「ぐっと押し」「ふさぐ」「混み合い」「雑踏」などと訳されている。ジャムは、詰めこまれたもの、いっぱい詰まっているものというイメージだが、消化のよい食品として古くから認められていたようだ。また、保存性に優れた食品として、古今東西、長い間人々に親しまれてきた。一般的にジャム類は、果実などを砂糖などと一緒にゼリー状になるまで加熱し混ぜ合わせたもので、ジャム、マーメイド、ゼリーの3種類に分類されるが、保存性と素材の風味や色、香りを生かした身近な食品として広く世界中でつくられており、毎年のように自家製ジャムをつくっているご家庭もあることだろう。最近、各地域の道の駅などでおしゃれなラベルのジャムをみかけることも多くなった。わがマチ特産のいちごやりんごなどで作ったジャム、マーメイドはもちろんのこと、ブルーベリー、ラズベリー、プルーン、ルーバークなど特産フルーツをはじめ、野菜や花卉を原料としたジャムも各地で販売されている。黒松内でも朝のお目覚めにピッタリの出る灘(おり)を煮詰めて作ったアフターディナー向け？ジャム(ソース)がある。お土産として取りやすいジャム商品は多様化が進んでいるが、ひとくちで美味しさのイメージが湧く個性派ジャムが人気のようである。口の中を含めば、アフターティーの会話がはずむ午後のジャム、、朝のカシスジャムや夜のワイン燻ジャムに続く黒松内産官能ジャムの出現に期待したい。(編集長)



## NISEKO BEER

### ～ニセコビアレ스토랑 NIKAI～

11月22日、ニセコビール醸造所2階に「クラフトビアレ스토랑ニ階(NIKAI)」がオープン。ニセコ市街地サイレン坂のトップにある旧ニセコ町商工会館が若者たちの手によって風土を感じるクラフトビアの醸造所&おしゃれなビアレ스토랑に変身した。ニセコの美味しい水を使ったピルスナー(山吹)、ペールエール(残照)、地元で採ることが出来る鮭節などを風味付けに使ったポーター(蝦夷)を中心にブドウやかぼちゃを使ったフルーツビールなど、少量生産の美味しい地ビールを醸造している。スキーシーズンでニセコ方面へ足を運ぶ方へ、運転手付であれば是非オススメしたい一軒である。

クラフトビアレ스토랑ニ階  
ニセコ町字本通4番地1-1  
TEL: 0136-55-5664  
営業時間: 16:30～22:30  
定休日: 水曜日

## <<黒松内今昔物語>> ～黒松内山道こぼれ話②～

### —黒松内に魔女が棲む?— 文: 北村英芳

「くろまつない」の原義はアイヌ語の「クロ・マト・ナイ」で「和人・女・沢」と訳される。永田方正の『蝦夷語地名解』によれば「クロマツナイ」の地名は、道内に3か所存在する。1箇所は、沙流川筋のクルマツマナイ(沙流郡平取町)で、「日本婦人ノ沢、昔抗夫ノ妻此ニ死タリ、故ニ名クト」の意味を述べている。次は、積丹郡のクルマツナイ(積丹郡積丹町入舸海岸)で、「日本婦人ノ沢、和女難船シテ此ニ死シタル似テ名ケタリト」との意味を付している。そして、本町のクルマツナイである。沙流川筋と積丹海岸のクルマツナイはそのいわれを説いているが、当地については「和女の沢、黒松内村」と意識にとどめている。町内1区、緑橋の下に建つ「黒松内発祥の地」碑は、旧大鳥社跡の記念碑であるが、併せて「花岡宿」がこの付近に在ったことも伝えている。花岡宿の創設者である利右衛門の来往について、松浦武四郎は『西蝦夷地誌/寿津領篇』に、「文政初め(1829年)ごろ、松前の人花岡利右衛門ここに家を建て通行人を木賃で泊めた」と述べている。蝦夷地は和人の女があまり入らなかったため、アイヌの人たちは花岡宿の女性を珍しく思い、「和女のいる沢」と伝えたのでは?と黒松内町史は述べている。しかし、アイヌ語の歴史を調べている人が、この「和人女性のいる沢」説に異を唱えている。

クルマツ(kurumat)の「kuru」は、「陰」「魔」、あるいは「神」の意味で、より古い時代に使われていたという。「mat」は「女」を意味する本来のアイヌ語であることから、黒松内にいたのは和人ではなく、人に危害を加える「魔女がいた伝説」では?と述べている。(※ツイッター「アイヌ語じいさん」/平成26年1月12日)

国道5号線線の炭岱から左折し、道々9号線に入ると「稲穂峠」と呼ばれる丘陵地がある。この「稲穂」の原義は、アイヌの人たちが柳の木を削って作る祭祀の「エナヲ」のことで、松浦武四郎の『東蝦夷地誌/山越内領篇』には「エナヲ峠は昔、山越内・アブタの境で、アイヌがエナヲを立てた跡があり、それから6・7丁過ぎたところに境柱があって今そこを界としている」と書かれている。アイヌの人たちは、何故こんな山奥にエナヲの祭祀場を造り、そしてなにを祈ったのだろう?もしいや...

...遠い昔、アイヌの人たちは小高い丘にエナヲを立て、黒松内川上流の沢に向かい「魔女様、私達に危害を加えるのをやめ下さい。どうか私達を苦しめないで下さい」と祈りを捧げた。願いは通じ魔女はアイヌの人たちの前から姿を消し伝説として残った。...「黒松内の沢には魔女が棲む」...と。



花岡宿の図(目賀田帯刀が描いた黒松内の絵図から)

**-小さい歴史つけた-** 「馬」くろまつない

北海道生まれの人を道産子といいますが、北海道生まれの馬、つまり北海道和種の馬を道産子と呼んでいます。道産子は競馬のサラブレッドなどの「軽種馬」ではなく、足も首も太くて短くて、胴体もずんぐりして重さは800～1200キロもある「重種馬」の農耕馬です。また、農家自慢の農耕馬を競わせる草競馬が発展し、世界でもめずらしい農耕馬がそりを引きながら速さや力強さを競う「ばんえい競馬」が生まれたことなど、ご存じの方も多しはず。さて、馬の産地という日高を連想しますが黒松内も北海道有数の馬産地で、道産子や本州へ出荷される食用馬の育成地だったそうです。現在、黒松内ではばんば馬の育成をしている方は減ってしまいましたが、白井川地区の玉置力(ちから)さんが、ばんえい競馬用のばんば馬を数頭育成しています。「ばんばレースの魅力は何といっても力強さ。重りと騎手を引いて坂を登る姿はたくましい、見ていて力が入る」と玉置さんは話してくれました。さすがに力さんだけあってサラブレッドより力のある馬に惹かれるようだ。ご自宅裏で馬を飼っているので一声かけて許可をもらえば見学も可能。



**BEECH BOYS** ～ブナ里少年記紹介～

添別在住 富田重義さん 黒松内町生まれ 66歳

黒松内町の添別の話になれば、この方の名前が出てくる。地域の自然を愛し、まちづくりにも積極的に取り組んでいる富田重義さんに少年時代のお話を聞いた。

Q.子供のころはどんな少年だったのですか？

A.内気な子だった(笑)。だけど、小・中学校の9年間の間は、学校を一度も休んだことはなかった。通信簿に「成績は優秀だが、消極的」と書かれていたことを思い出す。

Q.小さい頃の風景で思い出されることは？

A.川だね。爺さんとよく添別川にヤマメ釣りにいったもんだ。昔は、学校帰りなんかバケツ一杯ヤツメウナギを捕まえて、街で買い取ってもらったよ。太いやツメは5円、細いのが3円で売れた。今は昔と違って、河川の切替え工事や砂防ダムの設置が影響してかヤツメも獲れなくなったね。

Q.少年時代ははたして何になろうと考えていました？

A.あまり考えてなかったかな。俺は長男だけど、その頃、家の長男は農業を継ぐものと思っていたから。

Q.若い時の夢と今抱いている夢、結びつくところはありますか？

A.ん～あるよ！農家として、いいモノを作りたいたいということ。安心安全な農作物を作ると共に、生計の成り立つ農業をしなければならぬ。そこが農業の面白さであり、難しいところ。

Q.ブナ里で少年時代を送る子どもたちへメッセージを！ >> A.自然の恵みを感じながら生きてほしい

編集長から一言。。。

奥様のキクアさんと共に町内初となったファームインを営む富田さん、若い時に酪農研修に行った興部町やアメリカでの経験が農業に対する理念やライフスタイルの基礎を築いたということを以前話してくれた。ファームインも4年目を迎え「家族の一員として迎えたい」という富田夫妻のおもてなしに「親戚の家に来たようで、くつろげた」と答える泊り客が多い。日本酒好きの重義さんと一杯やりながらキクアさんの手料理を食べ、黒松内でのんびり過ごすというリピーターは確実に増えている。



**今年もお世話になりました。**



2014年も残すところあとわずかとなりました！サポート会員の皆様、並びに交流体験のプレイヤー、マルシェ会員をはじめとする関係者の皆様におかれましては日頃より格別のご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。ブナ北限の里ツーリズムでは現在、道の駅ブナマルシェの運営、赤井川体験農園の管理運営、体験イベントの企画運営、個人向け体験メニューの創出を事業の柱に2名のコーディネーターがそれぞれの得意分野を活かしながら黒松内の自然、景観、伝統、文化に適応した地域観光の魅力アップを目指し邁進しているところでございます。今後も皆様と共に地域の魅力アップにつながる活動を継続していくべく、明るく年も変わらぬお引き立てのほど、よろしく願い申し上げます。

**それでは、来年もまた、良い一年でありますよう！**

PS. お暇がありましたら事務所まで是非遊びにきてください。

ブナ里北限の里ツーリズム・コーディネーター 本間・山口

**2015 冬のイベント情報**

2月1日(日)

<<世界湿地の日スノーシューハイク>>黒松内町

平成23年より継続して実施してきた「世界湿地の日イベント」、昨年好評だった歌オノコの巨木ウォッチングとタンポポハウスさんでの心のこもった、ちよこっちゃんちを今年も実施します。

午前8:30～ 所要時間約4時間 参加費1,500円程度  
問い合わせは、ブナ里ツーリズム・本間まで TEL:090-5229-2056

2月26日(木)

<<コミュニティーデザインで地域創生>>山崎亮氏講演会

地域の声を聞き、人を結びつけ、その地域の問題解決に取り組むことを職業として全国を駆けまわる人気コミュニティーデザイナー・山崎亮氏が黒松内町で講演会を行います。

参加無料 場所：総合町民センター大ホール 18:30～20:00  
申し込みは、黒松内町教育委員会まで TEL:0136-72-3160

2月28日(土)

<<観光と地域づくりシンポジウム>>長万部町

「創造的過疎」という言葉を生み、都市部のクリエイターたちを集め、田舎からクリエイティブビジネスを発信する神山グリーンバレーのキーマンであるNPO法人グリーンバレー理事長・大南信也氏、エコツーリズムを専門とする北大観光学教授・数田教授などを招いて観光と地域づくりに関するフォーラムが開催される。詳細については来年1月に発表予定。

お問い合わせは、ブナ里ツーリズム・本間まで TEL:090-5229-2056

3月8日(日)

<<冬のフットバスイベント>>黒松内町

添別地区のイベントコースをフットバスボランティアの皆さんと一緒にかんじきを履いて歩きます。昼食は昨年に引き続きファームイン富田を予定。

お問い合わせは、企画調整課・桜井さんまで TEL:0136-72-3376